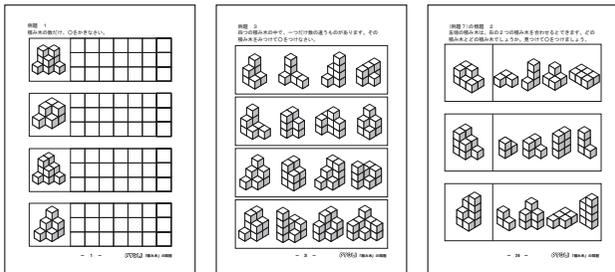
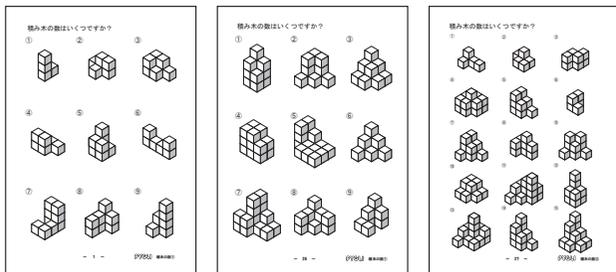


空間能力は数や言語の基礎能力をなす、とても大切な能力であり、空間感覚を育成することなくして思考力、問題解決能力は育ちません。空間能力を鍛えるには「平面位置」や「点描写」を間違わずにできるまで一日一問ずつこなすのがよいでしょう



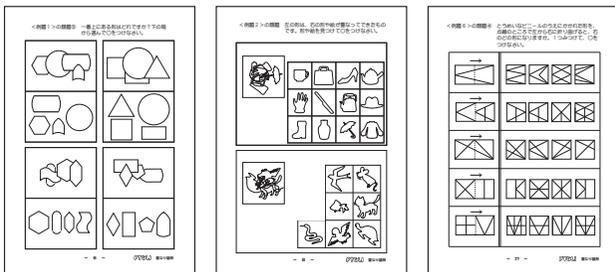
積み木の数を瞬時に認識する訓練です。全国の有名小入試の積み木の問題を8種類に分類してあります。この問題は入試によく用いられるだけでなく、数能力全般の能力育成に効果的で、特に事象の抽象化・概念化の能力育成には効果を発揮します。

12・13 積み木の数①・②



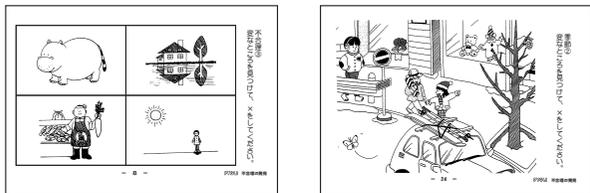
積み木を自在に分割し、集合体として瞬時に数を認識することで、四則演算のすべての基礎が育成されます。積まれた積み木をただ数えるだけの数唱主義は、小手先だけの計算技術であり数能力の向上には役立ちません。

14 重なり図形



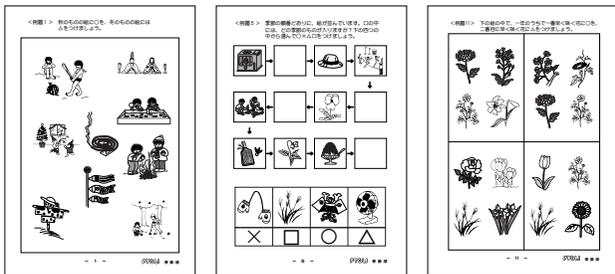
図形能力は知性を構成する主要な能力であり、後天的に育つ知性ですので、訓練なくして育つことはありません。図形能力向上に向けて、解答のために図形を書き込むようなことはせず、図形の実物を用い、実際に図形を重ねて指導してください。

15 不合理の発見



「不足」「不合理」「道徳」「季節」といった、日常の常識を問う問題です。普通に考えればわかる問題ばかりですが、季節に関しては16「季節感」を参考にするとよいでしょう。不足や不合理などには少々難しい問題もありますが、面白いので楽しく取り組むことができます。

16 季節感



季節感の問題は、時間感覚の発達していない幼児には理解するのが難しい問題です。日常生活の中で四季感覚の育成に努めるべきですが、文明の発達で季節感覚を喪失させている面もあるので、知識として暗記させるのも一つの方法です。

17 童話・昔話



この「童話・昔話」の問題は、小学校受験対策だけではなく、物語的文章構成力の基礎作りという観点でとらえるようにしてください。主要な物語の内容をきちんと理解し、主人公・あらすじ・登場人物との関係などを覚えましょう。

18 ことば



「ことば」とは言語能力のことであり、その本質とはコミュニケーションの能力でもあります。この能力は社会ではとても重要視される能力です。思考をきちんとした言語で表現し、互いに理解しあえるようにことばの能力を鍛えましょう。